

環境未来都市提案書（様式1）

平成23年9月30日

神奈川県知事 黒岩祐治

タイトル	環境共生モデル都市「ツインシティ」の整備推進
提案者	神奈川県知事 黒岩祐治
総合特区との 関係	かながわグリーンイノベーション地域活性化総合特別区域

解説：

- ① 相模川の河川空間及び周辺の農業、田園環境などとの共生を図るとともに、省エネルギー型、循環型、低炭素、低環境負荷型の地球環境にやさしい環境共生都市
- ② 都市圏内に高度に集積している先端技術産業、都市農業、流通関連産業等のさらなる高度化、多様化を支援する機能誘導を図るとともに、環境や情報などの分野での新しい産業を創出・育成する都市
- ③ 高度情報化社会、少子高齢化社会に対応した新たな生活スタイル、ワークスタイルを実践する都市
- ④ 多彩な自然や、産業の集積、大学の立地が多いなどのポテンシャルを活かし、我が国でも希な交通要衝地帯となるとともに、利用しやすい公共交通の整備推進やその結節点におけるスムーズな乗り換えを確保し、歩行者・自転車の通行を優先する交通システムが形成された交流と連携の窓口（ゲート）となる都市

## (2) 目指すべき将来像の実現に向けた課題・目標の設定と価値創造

### ①環境

<b>i) 課題・目標</b>
<p><b>&lt;テーマ&gt; a) 低炭素・省エネルギー</b></p> <p>太陽光発電システム等の自然エネルギーの積極的な利用とコージェネレーション（燃料電池）の組み合わせによるエネルギー供給を管理するシステム化、公共交通を積極的に活用することにより、CO<sub>2</sub>排出量の低減等が図られた環境負荷の少ないまちづくりモデルの実現。また、相模川河川空間などの自然環境を保全しながら、まちづくりに取り込み、活かしていく整備も併せて進めていく。</p>
<b>ii) 評価指標及び数値目標</b>
<p>評価指標：CO<sub>2</sub>排出量削減</p> <p>数値目標：100%（平成23年9月現在）→50% <span style="background-color: #cccccc; display: inline-block; width: 100px; height: 1em;"></span></p>
<b>iii) 課題の解決・目標の達成に向けた取組方針</b>
<p>戸建て住宅街区において、燃料電池と太陽光発電システムを街区ごとに設置し、エネルギーの共有化及び一元的管理により住宅街区におけるCO<sub>2</sub>排出量削減を図る。（数値目標に対する寄与度：100%）</p>
<b>iv) 課題の解決・目標の達成の過程で創造される価値</b>
<p><b>ア) 環境価値</b></p> <p>太陽光発電システム等の自然エネルギーの積極的な利用とコージェネレーション（燃料電池）の組み合わせによるエネルギー供給を管理するシステム化、公共交通を積極的に活用することにより、CO<sub>2</sub>排出量の低減等が図られた環境負荷の少ないまち</p> <p><b>イ) 社会的価値</b></p> <p>環境負荷の少ないまちを起点とする波及効果</p> <p><b>ウ) 経済的価値</b></p> <p>エネルギー使用の効率化による電気料金、ガス料金の削減</p>
<b>v) 取組の実現を支える地域資源等の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地理的条件</b></li> <li> <p>県央・湘南都市圏は、東京都心から50km圏の神奈川県中央部に位置し、首都圏の機能分散の一翼を担う厚木広域連携拠点のほか、西に丹沢大山山系、中央に相模川が流れ、南に相模湾に面して湘南海岸を配するなど都市の中に貴重な自然空間を有している地域である。環境共生モデル都市「ツインシティ」は、この県央・湘南都市圏の中央部、相模川を跨いだ平塚市、寒川町に位置している。</p> </li> <li>・ <b>人口・人口構成</b></li> <li> <p>県央・湘南都市圏（11市・4町・1村）279万人（65才以上15.9%）【H17国勢調査】</p> <p>このうち「ツインシティ」の整備を行う</p> </li> </ul>

平塚市：26万人（65才以上17.6%）、寒川町5万人（65才以上15.3%）

このように多くの人口を抱え、県央湘南都市圏および「ツインシティ」の発展性、対外的な波及効果は高い。

- ・ **産業構造、地域の産業を支える企業の集積等**

県央・湘南都市圏は、日産自動車㈱をはじめとする自動車関連企業、ソニー㈱などの電子機器企業、また横浜ゴム㈱などの化学関連企業が多く集積している。特に環境分野では、太陽光パネルの研究開発製造を行うソーラーフロンティア厚木市サーチセンター、アルパ本社、島津製作所秦野工場や電気自動車の研究開発を行う日産厚木研究所、リチウムイオン電池の開発製造を行うオートモーティブエナジーサプライなどの環境関連企業も集積しており、企業の連携により新たな付加価値、ビジネスモデルの創出が可能である。

- ・ **地域独自の技術の存在**

県央・湘南都市圏は、輸送機器や電子機器企業をはじめとした製造業が多数集積するものづくりの先進的な地域であり、世界初の量産型電気自動車の開発、日本初のCIGS化合物太陽電池の事業化などがなされている。さらに、学術・開発研究機関が多く、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスなどの大学との連携も盛んであり、ものづくり技術が集積している。

- ・ **都市構造・社会資本の現状**

県央・湘南都市圏は、圏央道、新東名などの高速道路の整備が進み、広域的な道路ネットワークが完成しつつある。また、鉄道網についても、今後、整備が予定されているリニア中央新幹線県内駅を北のゲート、東海道新幹線新駅を南のゲートとし、これを結ぶJR相模線の輸送力の増強を図ることで、全国や首都圏との交流連携がより一層強化される。さらに、ツインシティの整備と併せて周辺都市からの交通体系の整備を図り、相模川をまちづくりに取り込み、河川沿いを自転車道などとして整備し、その自然環境を活かすことにより、相模川東西両地域の一体化や周辺都市との密接な交流連携を促進していく。

- ・ **人材、NPO等の地域の担い手の存在等**

「ツインシティ」では、住民・地権者等と学識者、行政による「環境と共生するまちづくり検討会」が設置されており、すでにまちづくりの検討をはじめている。今後はこの「検討会」により、具体的なまちづくりを進める。さらに、まちづくりの進展に合わせて、住民・地権者等が自分たちのまち（エリア）を自分たちで創り、育てていく、エリアマネジメント組織の設置が見込まれている。

## ②超高齢化対応

<b>i) 課題・目標</b>
<p>&lt;テーマ&gt; g) 地域の介護・福祉</p> <p>高齢者が安心して元気にいきいきと暮らすまち。できるだけ健康で、自立して生活する高齢者が多いまち</p>
<b>ii) 評価指標及び数値目標</b>
<p>評価指標：要支援・要介護認定者の低減</p>
<b>iii) 課題の解決・目標の達成に向けた取組方針</b>
<p>バリアフリーの道路、安心な歩道ネットワークの整備（安心に暮らす）</p> <p>安全に運動できる公園の整備（健康で運動能力を維持し、元気に暮らす）</p> <p>交流活動のためのコミュニティ施設の整備（いきいきと生きがいを持つ）</p> <p>医療・介護の情報共有システムの構築（情報を一元化し、総合的な健康支援を行う）</p>
<b>iv) 課題の解決・目標の達成の過程で創造される価値</b>
<p><b>ア) 環境的価値</b></p> <p>高齢者が安心して元気に暮らすことのできる空間環境</p> <p><b>イ) 社会的価値</b></p> <p>高齢者が安心して元気にいきいきと暮らす、誰もが住みよい社会づくり</p> <p><b>ウ) 経済的価値</b></p> <p>医療費の削減</p>
<b>v) 取組の実現を支える地域資源等の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地理的条件</b> <p>県央・湘南都市圏は、東京都心から 50 k m圏の神奈川県中央部に位置し、首都圏の機能分散の一翼を担う厚木広域連携拠点のほか、西に丹沢大山山系、中央に相模川が流れ、南に相模湾に面して湘南海岸を配するなど都市の中に貴重な自然空間を有している地域である。環境共生モデル都市「ツインシティ」は、この県央・湘南都市圏の中央部、相模川を跨いだ平塚市、寒川町に位置している。</p> </li> <li>・ <b>人口・人口構成</b> <p>県央・湘南都市圏（11市・4町・1村）279万人（65才以上15.9%）【H17国勢調査】</p> <p>このうち「ツインシティ」の整備を行う</p> <p>平塚市：26万人（65才以上17.6%）、寒川町5万人（65才以上15.3%）</p> <p>このように多くの人口を抱え、県央湘南都市圏および「ツインシティ」の発展性、対外的な波及効果は高い。</p> </li> <li>・ <b>産業構造、地域の産業を支える企業の集積等</b> <p>県央・湘南都市圏は、日産自動車(株)をはじめとする自動車関連企業、ソニー(株)などの電子機器企業、また横浜ゴム(株)などの化学関連企業が多く集積している。特に環境分野では、太陽光パネルの研究開発製造を行うソーラーフロンティア厚木市サーチセ</p> </li> </ul>

ンター、アルパ本社、島津製作所秦野工場や電気自動車の研究開発を行う日産厚木研究所、リチウムイオン電池の開発製造を行うオートモーティブエナジーサプライなどの環境関連企業も集積しており、企業の連携により新たな付加価値、ビジネスモデルの創出が可能である。

- ・ **地域独自の技術の存在**

県央・湘南都市圏は、輸送機器や電子機器企業をはじめとした製造業が多数集積するものづくりの先進的な地域であり、世界初の量産型電気自動車の開発、日本初のCIGS化合物太陽電池の事業化などがなされている。さらに、学術・開発研究機関が多く、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスなどの大学との連携も盛んであり、ものづくり技術が集積している。

- ・ **都市構造・社会資本の現状**

県央・湘南都市圏は、圏央道、新東名などの高速道路の整備が進み、広域的な道路ネットワークが完成しつつある。また、鉄道網についても、今後、整備が予定されているリニア中央新幹線県内駅を北のゲート、東海道新幹線新駅を南のゲートとし、これを結ぶJR相模線の輸送力の増強を図ることで、全国や首都圏との交流連携がより一層強化される。さらに、ツインシティの整備と併せて周辺都市からの交通体系の整備を図り、相模川をまちづくりに取り込み、河川沿いを自転車道などとして整備し、その自然環境を活かすことにより、相模川東西両地域の一体化や周辺都市との密接な交流連携を促進していく。

- ・ **人材、NPO等の地域の担い手の存在等**

「ツインシティ」では、住民・地権者等と学識者、行政による「環境と共生するまちづくり検討会」が設置されており、すでにまちづくりの検討をはじめている。今後はこの「検討会」により、具体的なまちづくりを進める。さらに、まちづくりの進展に合わせて、住民・地権者等が自分たちのまち（エリア）を自分たちで創り、育てていく、エリアマネジメント組織の設置が見込まれている。

### ③その他

<b>i) 課題・目標</b>
<p><b>&lt;テーマ&gt; i) 環境共生型技術・システムの発信</b></p> <p>最先端研究機関や大学のサテライトオフィス等の集積による、世界に例のない環境共生型技術・システムの発信拠点の創出</p>
<b>ii) 評価指標及び数値目標</b>
<p>評価指標：環境共生型技術・システムの創出</p>
<b>iii) 課題の解決・目標の達成に向けた取組方針</b>
<p>ツインシティを実証実験の場とする。</p> <p>産官学連携センターの設置</p>
<b>iv) 課題の解決・目標の達成の過程で創造される価値</b>
<p><b>ア) 環境価値</b></p> <p>最先端の環境共生型技術・システムの創出によるさらなる環境共生型社会への貢献</p> <p><b>イ) 社会的価値</b></p> <p>環境共生型技術・システムの実証実験の場としてのランドマーク</p> <p><b>ウ) 経済的価値</b></p> <p>新たな環境共生型技術・システムの先端技術企業の発展</p>
<b>v) 取組の実現を支える地域資源等の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地理的条件</b> <p>県央・湘南都市圏は、東京都心から 50 k m圏の神奈川県中央部に位置し、首都圏の機能分散の一翼を担う厚木広域連携拠点のほか、西に丹沢大山山系、中央に相模川が流れ、南に相模湾に面して湘南海岸を配するなど都市の中に貴重な自然空間を有している地域である。環境共生モデル都市「ツインシティ」は、この県央・湘南都市圏の中央部、相模川を跨いだ平塚市、寒川町に位置している。</p> </li> <li>・ <b>人口・人口構成</b> <p>県央・湘南都市圏（11市・4町・1村）279万人（65才以上15.9%）【H17国勢調査】</p> <p>このうち「ツインシティ」の整備を行う</p> <p>平塚市：26万人（65才以上17.6%）、寒川町5万人（65才以上15.3%）</p> <p>このように多くの人口を抱え、県央湘南都市圏および「ツインシティ」の発展性、対外的な波及効果は高い。</p> </li> <li>・ <b>産業構造、地域の産業を支える企業の集積等</b> <p>県央・湘南都市圏は、日産自動車(株)をはじめとする自動車関連企業、ソニー(株)などの電子機器企業、また横浜ゴム(株)などの化学関連企業が多く集積している。特に環境分野では、太陽光パネルの研究開発製造を行うソーラーフロンティア厚木市サーチセンター、アルパ本社、島津製作所秦野工場や電気自動車の研究開発を行う日産厚木研究所、リチウムイオン電池の開発製造を行うオートモーティブエナジーサプライなど</p> </li> </ul>

の環境関連企業も集積しており、企業の連携により新たな付加価値、ビジネスモデルの創出が可能である。

- ・ **地域独自の技術の存在**

県央・湘南都市圏は、輸送機器や電子機器企業をはじめとした製造業が多数集積するものづくりの先進的な地域であり、世界初の量産型電気自動車の開発、日本初のCIGS化合物太陽電池の事業化などがなされている。さらに、学術・開発研究機関が多く、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスなどの大学との連携も盛んであり、ものづくり技術が集積している。

- ・ **都市構造・社会資本の現状**

県央・湘南都市圏は、圏央道、新東名などの高速道路の整備が進み、広域的な道路ネットワークが完成しつつある。また、鉄道網についても、今後、整備が予定されているリニア中央新幹線県内駅を北のゲート、東海道新幹線新駅を南のゲートとし、これを結ぶJR相模線の輸送力の増強を図ることで、全国や首都圏との交流連携がより一層強化される。さらに、ツインシティの整備と併せて周辺都市からの交通体系の整備を図り、相模川をまちづくりに取り込み、河川沿いを自転車道などとして整備し、その自然環境を活かすことにより、相模川東西両地域の一体化や周辺都市との密接な交流連携を促進していく。

- ・ **人材、NPO等の地域の担い手の存在等**

「ツインシティ」では、住民・地権者等と学識者、行政による「環境と共生するまちづくり検討会」が設置されており、すでにまちづくりの検討をはじめている。今後はこの「検討会」により、具体的なまちづくりを進める。さらに、まちづくりの進展に合わせて、住民・地権者等が自分たちのまち（エリア）を自分たちで創り、育てていく、エリアマネジメント組織の設置が見込まれている。



### (3) 3つの価値の総合的な創造

<b>① 3つの価値の総合的な創造による相乗効果・副次的効果の発現</b>
<p>「低炭素・省エネルギー」、「環境共生技術・システムの発信」： 環境共生型技術・システムの研究・開発とその実証実験の場としてのモデル都市が、共存することによる技術のモデル化、研究開発へのフィードバックが行われ、より高い次元の環境共生型社会の実現が図られる。</p> <p>「地域の介護・福祉」、「環境共生技術・システムの発信」： 先端技術を利用した高齢者の医療、介護に関する情報共有が行われ、よりよいサービスの提供が行われる。</p>
<b>② 3つの価値の総合的な創造のための方策</b>
<p>先端技術と実証実験の場の共存による環境共生型技術・システムの発展、超高齢化に対する対応技術相互による技術・システムの発展、住民の満足度の向上が図られる。</p>

## 2. 取組内容

### (1) 5年以内に実施する取組の内容

<b>&lt;①環境&gt; (低炭素・省エネルギー)</b>	
<b>①取組内容</b>	
<p>基盤整備のためのマスタープラン作成          道路・公園・下水道などの都市施設整備に着手</p>	
<b>②実施主体</b>	
神奈川県、平塚市、寒川町、土地区画整理組合	
<b>③実施エリア</b>	
平塚市大神地区 (約 70ha)、寒川町倉見地区 (約 25ha)、相模川新橋	
<b>④事業費・事業規模</b>	
マスタープラン作成	
平塚市大神地区 約 70ha	
寒川町倉見地区 約 25ha	
相模川新橋	
<b>⑤実施時期</b>	
<b>⑥当該取組から創出される成功事例とその普及展開の考え方、自立的・自律的モデルの実現可能性</b>	
<p>基盤整備のプラン段階から低炭素・省エネルギーに取り組むことにより総合的な効果を上げることができる。また、エリアマネジメント組織による取り組みの実現が図られる。</p>	
<b>⑦当該取組を進める上での障壁とその解決を図るために必要な措置に関する国への提言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設以外 (東海道新幹線新駅) への施設整備への交付金などの支援等</li> <li>・ 都市計画法、農地法などの調整を総括的にスピード感をもって行うことのできる協議の場の設置</li> </ul>	
<b>⑧その他</b>	
なし	

(2) 内閣府補助事業（環境未来都市先導的モデル事業）で実施を希望する事業内容

①事業内容
環境共生モデル都市のマスタープラン策定業務
②実施主体
神奈川県、平塚市、寒川町、民間企業
③実施エリア
平塚市大神地区、寒川町倉見地区
④事業費・事業規模
3,000万円 2年間
⑤その他
業務委託

(3) 地域の責任ある関与（地域において講ずる措置）

<b>①地域独自の税制・財政・金融上の支援措置</b>
【神奈川県】 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 共同研究開発助成制度（平成 22 年度より措置）：③その他</li><li>・ 産業集積支援融資制度（平成 22 年より措置）：③その他</li><li>・ 土地家屋の税率を 1/2 に軽減（平成 22 年より措置）：③その他</li><li>・ 雇用助成制度：③その他</li></ul>
<b>②地方公共団体の権限の範囲内での規制の緩和や地域独自のルールの設定</b>
【神奈川県】 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 緑地面積率の緩和：③その他</li></ul>
<b>③その他の地域の責任ある関与として講ずる措置</b>
今後、検討を行う。

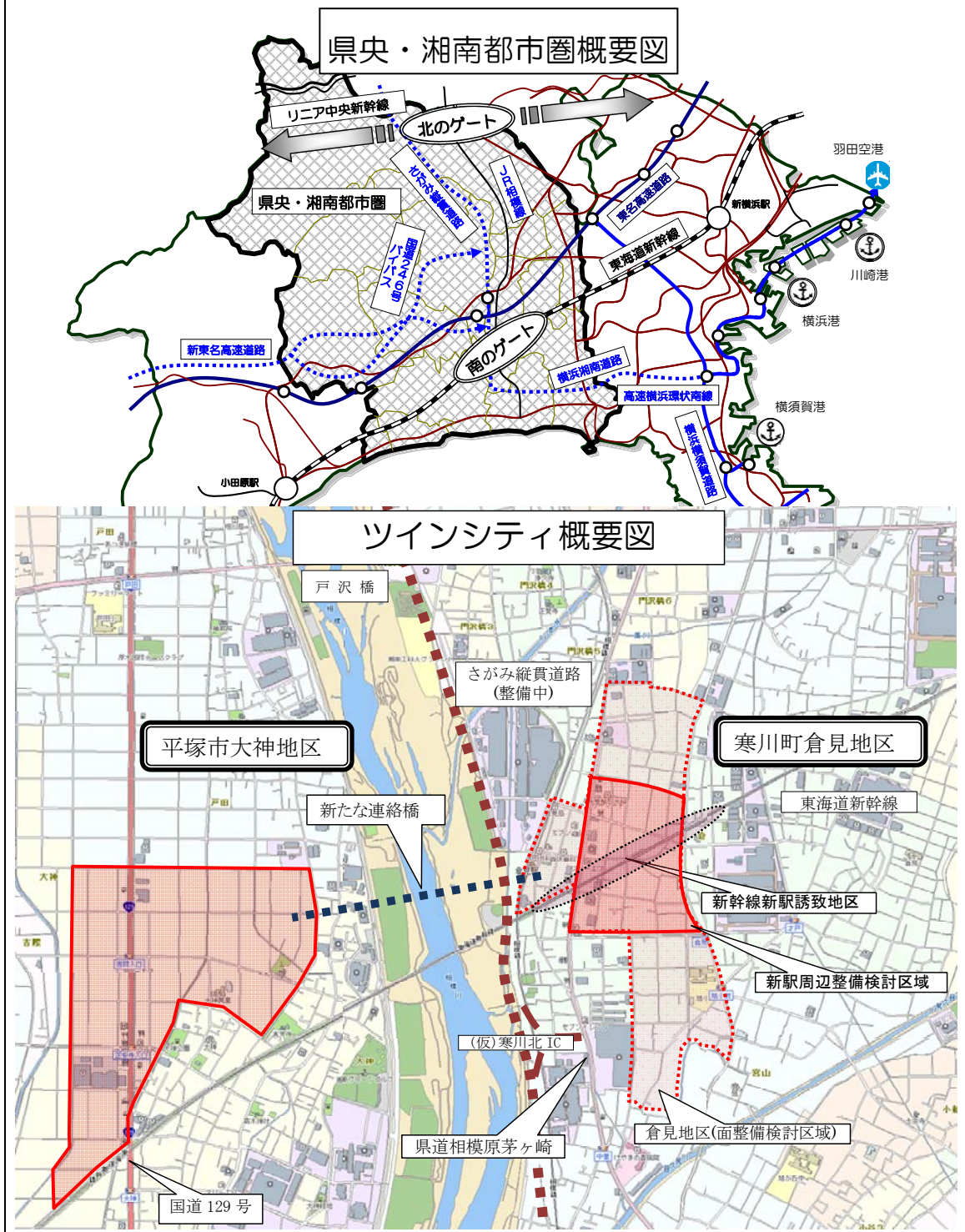
(4) 取組全体のスケジュール

都市計画決定

土地区画整理事業

まち開き

解説：できる限り早期に土地区画整理事業を完成し、環境共生型まちづくりを進める。



### 3. 体制

#### (1) 実施主体の実効性と熟度

<b>①実施主体の体制（コンソーシアム）</b>
神奈川県（全体の整備計画策定）、平塚市（大神地区面整備調整）、寒川町（倉見地区面整備調整）、土地区画整理組合（面整備・地権者調整）、関連企業（ツインシティ整備に係わる企業・大学懇談会）
<b>②実効ある取組の継続性を担保するための方策（安定的なガバナンスについての考え方）</b>
平塚市、寒川町、土地区画整理組合、関連企業によるエリアマネジメント組織を立ち上げ、神奈川県の出先事務所と一体となって活動し、永続的なマネジメントを行う。

## (2) プロジェクトマネジメントの着実な実施

<b>①プロジェクトマネジメントの方法</b>
平塚市、寒川町、土地区画整理組合、関連企業によるエリアマネジメント組織を立ち上げ、神奈川県の出先事務所と一体となって活動し、永続的なマネジメントを行う。
<b>②プロジェクトマネージャー</b>
今後、エリアマネジメント組織を設立する。

### (3) 都市間連携・ネットワークの有効活用

<b>①都市間連携・ネットワークの活用方法</b>
現在、7つの研究グループ（43の企業、団体）から構成される「ツインシティ研究パートナー連絡会」によって、環境と共生する都市づくりを研究しつつ、意見交換を行っている。このネットワークを活用し、国内外の好事例をまちづくりにフィードバックしていく。また、実践したまちづくりを発信していく。
<b>②現在有している都市間連携・ネットワーク</b>
「ツインシティ研究パートナー連絡会」（平成15年10月設置、現在活動中）



(別紙) 総合特区との関係について

環境未来都市提案書(様式1)の1頁において、総合特区の指定申請に係る名称を記している場合であって、環境未来都市及び総合特区の両方に共通の課題・目標を持つものがある場合は、<1. 将来ビジョン、(2) 目指すべき将来像の実現に向けた課題・目標の設定と価値創造、①環境・②超高齢化対応・③その他、i) 課題・目標>において記載した「テーマ」を以下に記載すること。

1	a) 低炭素・省エネルギー
---	---------------